

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立飯南高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を育成する学校 ○高校生が地域に関わり、地域とともに活動する学校
(2)	育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○学習、部活動、学校行事に積極的に取り組み、「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を身につけた生徒 ○地域と連携した活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して地域や周囲の人の役に立てることを自己の喜びと感じられる生徒
	ありたい 教職員の姿	○生徒を第一に考え、「生きる力」の育成のために、協力し、助け合いながら、生徒とともに成長し続ける教職員 ○生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧に粘り強く関わることをとおして、優しい心や豊かな人間性を育むなど、心の成長を促す教職員 ○教科指導の改善や探究活動、キャリア教育に積極的に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒>安全・安心で充実した高校生活を送り、「生きる力」を身につけ、自己の進路希望を実現したい。 <保護者等>キャリア教育を推進し、社会に適応し活躍できるようにしてほしい。 <地域>地域の高校として、地域と連携したキャリア教育をとおして生徒を育て、地域とともに活動する人材を育成してほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 授業、学校行事の様子など、学校の情報を発信してほしい。 <中学校> 選抜に係る情報についての相互理解を深めてほしい。 <地域社会> 地域とともに活動する人材の育成のため、行事における協力、交流を進めてほしい。	<家庭> 教育方針を理解のうえ、家庭でできる挨拶、コミュニケーションの実践を進めてほしい。 <中学校> 地域の高校としての現状を理解し、連携の強化を引き続き積極的に進めてほしい。 <地域社会> 地域の高校として、地域で学ぶ機会を増やすとともに、地域における就業機会が得られるよう支援してほしい。

(3)前年度の学校関係者 評価など		①【成果指標】「飯南高校で学ぶことに対して満足している生徒の割合を90%以上とする。」について 生徒満足度 93%(保護者満足度 94%)と、高い数字である。 ②【成果指標】「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」がついたと答えた生徒の割合を、それぞれの力について 75%以上とする。」について 「対話力」85.5%、「追究力」82.3%、「創造力」88.1%、「発信力」76.8%と、達成できている。 ③学校運営協議会発案・参画の放課後「学びの場」(塾)を 10 回以上開催でき、参加生徒たちは熱心に学んでいる。今後も個に応じた学習支援を継続していく必要がある。
(4)現状 と 課題	教育活動	①年間の学びの集大成として、生徒は「いいなんゼミ」発表会において、自ら取り組んだ研究内容のプレゼンテーションを行っている。今後はより多くの生徒にとって、「自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題」に取り組めるよう発展させていくとともに、1・2 年次から探究のスキルを身につけられるよう学習計画を整備する必要がある。 ②「生徒が主体的に学ぶ授業」を一層進め、改善を進めるため、教職員間での「学び合い」の機会を継続的に設けていく必要がある。
	学校運営等	①本校がコミュニティ・スクールとなり4年目を迎え、地域住民や中学校等、多様な関係者と連携・協働し、生徒を育てる仕組みを検討していく必要がある。 ②時間外労働が、特定の教職員で特に多い傾向である。特定の教職員に業務が集中しないように工夫していくとともに、休暇の取得も呼びかけていく。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	①変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」を育成するため、地域と協働し「地域を学び場とした探究活動」を推進 ②生徒が自ら学ぶ姿勢を育むとともに、学力の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進 ③生徒の自己肯定感を育み、自他の生命及び人権尊重の精神を育成するための人権教育を推進
学校運営等	①コミュニティ・スクールとして、生徒を中心とした教育の充実を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進 ②これからの社会で求められる力を育成できるよう、授業力向上の取組を推進 ③教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得られるよう、総勤務時間の縮減を推進

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	総合学科の学習活動を主体的、積極的、継続的かつ誠実に行える生徒
---------------------------------	---------------------------------

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学 習 指 導 の 充 実	(1)生徒が自ら学ぶ力を身につけるため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業に取り組むとともに、より効果を上げるため ICT の活用を推進する。 (2)基礎学力定着のための SHR 学習を行うとともに、「学びの基礎診断」を実施し、生徒の学力の定着と向上を図る。 【活動指標】生徒、保護者等対象の満足度調査、授業参観時の保護者等アンケートを、各 1 回ずつ実施する。 【成果指標】飯南高校で学ぶことに対して満足している生徒の割合を90%以上とする。	(1) 職員研修を実施し、活用推進に努めた。(年 3 回) ① GIGA スクールサポーターによる研修:遠隔授業について ② 「ICT を活用した学び」の実践共有 ③ ロイロノートの活用について (2)「学びの基礎診断」の実施 (年間) 1・2年次は、年 2 回(4月・9 月)実施 3年次は、1回(4月)実施 ・授業参観時(5/11、5/13～17、9/24～27)に保護者等アンケートを実施 飯南高校で学ぶことに対して満足している生徒約 95% (令和 7 年 1 月実施アンケート)	
生 徒 指 導 の 充 実	(1)基本的生活習慣の確立をめざし、挨拶の大切さを理解させるとともに、頭髮・服装指導を行う。 (2)学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見に努める。 【活動指標】4月、11月をいじめ防止月間とし、防止に向けた生徒の主体的な取組を実施する。 【成果指標】年間遅刻者数前年度比5%減	(1)頭髮・服装指導 毎月各年次 1 回実施 (2)生徒の見守り、教職員間でのこまめな情報交換、ケース会議により未然防止につとめている。 ・4 月のいじめ防止月間には言葉の大切さを伝えるために、生徒会役員がピンクのチラシを登校時に配付するとともに、いじめ防止の意識を高めるため、クイズを行った。 11 月はピンクチラシ配付に加え、全校集会での呼びかけ、ポスター掲示の取組を実施 ・12月末時点遅刻延べ数645回(-4.3%) (前年度 12 月末時点数674回)	
キャリア 教 育 の 充 実	(1)「地域を学び場とした探究活動」を推進し、総合学科の特色である 1 年次の「産業社会と人間」、2 年次の「キャリアデザイン」、3 年次の「いいなんゼミ」等を通じて、生徒の多様な能力・適性に応じた活動を推進し、「生きる力」(対話力・追究力・創造力・発信力)を向上させる。 (2)中高連携や高大連携、社会人講師による授業など、多様で魅力的な学びの場を提供する。特に、各系列の授業において地域と連携した学びの一層の充実を図る。(トークフォークダンス、社会福祉協議会と連携した講座等)	(1) ①科目「産業社会と人間」 5/28「車座トーク」 10/30・31フィールドワーク ②科目「キャリアデザイン」において 7～8月にインターンシップ ③2/6 高校生と地元企業との交流会 (2)高大連携 ①科目「社会科学入門」 ②科目「国際社会と日本」 2/21 皇学館大学出前授業 「日本の服飾史を学ぶ」 講師:新田恵三先生	

	【活動指標】 「産業社会と人間」で、地域と連携した学びの機会を年2回設ける。 2年次に、地域の企業を中心にインターンシップを実施する。 【成果指標】「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」がついたと答える生徒の割合を、それぞれの力について75%以上とする。	3/7 鈴鹿大学出前授業 「国際社会と日本」 講師:国際地域学部 伍翔先生 ③ 科目「観光ビジネス」 11/8「アポロスペースフラワー」阿部茂さん助言のもと、本校シンボルツリーのハナノキを装飾 ④ 放課後「学びの場」 開催回数10回 「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」がついたと答えた生徒 「対話力」95% 「追究力」94% 「創造力」93% 「発信力」88% (令和7年1月実施アンケート)	
人権教育の充実	(1)人権LHR等において、教職員も含めた意見交換のできる学習を取り入れていく。自他の考えを尊重し、多様性を認めあい、お互いを思いやることのできる仲間づくりを行う中で、生命の尊厳を理解できる人権学習を進める。	(1)生命の尊厳を理解できる人権学習 学期に1回程度実施。 ①各年次の人権LHR 1年次 仲間づくりワークショップ(4月) 2年次 鹿児島方面修学旅行に向けての平和学習(9・10月) 3年次 統一応募用紙について(5月) ②人権講演会「部落問題学習」 11/20 「これからの社会を創っていくみなさんへ」 講師:西村 昌晃さん ③性教育講演会 1年次 12/11 「ホンネで話そう、生と性 ～素敵に大人になるために～」助産師相談室 いのちのかがやき所長・助産師 林 みち子さん 2年次 12/12「脱デートDV～お互いを大切にする関係へ～」デートDV防止全国ネットワーク所属 吉本 まゆみさん 3年次 12/16「HAPPYライフプラン」思春期保健相談士 中谷 奈央子さん	
改善課題			
○地域を学び場とした探究活動をととして「対話力」「追究力」「創造力」「発信力」がついたと答える生徒の割合も多く、生徒自身の中で成長を実感することができている。1、2年次から探究のスキルを身につけられるよう学習計画の整備に力を注いでいるところではあるが、中学生の探究活動の内容やスキルも向上しており、今後さらに、キャリア教育の研究が必要とされる。			

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
学 習 指 導 の 充 実	(1)生徒の意欲向上、学力向上のために、公開授業や授業改善等に係る教職員研修を実施する。 【活動指標】 公開授業年 2 回以上実施 教職員研修年 2 回以上実施(ICT 活用研修を含む) (2)学びの基礎診断のデータを活用し、3 年間を見通して学力向上の取組を推進する。	(1)公開授業・教員研修の実施について ○公開授業 3 回実施 ①5/11 ②5/13～17 ③9/24～27 ○教職員研修年 6 回実施 ①7/4「総合的な探究(学習)の時間を軸とした授業改善の取組～進路・キャリアに重なる探究の取組を含めて～」 講師:長崎県立松浦高等学校長 舟越 裕さん ②9/10「ICT を活用した学び 生成 AI の活用について」 講師:三重県教育委員会事務局高校教育課 指導主事 齋藤 直樹さん ③10/7「目標の焦点化から、教育活動の Re-Design へ～さらなる学力向上につながるよう、評価の視点から考える～」 講師:福井県教育庁高校教育課 参事 渡邊 久暢さん ④11/20「人権研修:部落差別(同和問題)とは」講師:西村 昌晃さん ⑤1/23「話し方を変えれば、未来が変わる。～ 魅せる話し方や声、伝える・聴く力の向上に向けて～」 講師:株式会社トークナビ 代表取締役 樋田かおりさん ⑥2/18授業改善等に係る研修 ロイロノート・スクール基本操作研修会 講師:株式会社 LoiLo 後藤 すみれさん (2)学びの基礎診断の結果や学習状況の改善に向け、2 年次生は1学期、1年次生は2学期にガイダンスを実施。 定着を図るため、学びの基礎診断テストに付随した、マナビジョンを活用した学習を取り入れている。	
キャリア 教育 の 充実	(1)就職実現コーディネーターや若者サポートステーションと連携し、早期からの進路実現に向けた支援、求人開拓、職場定着に向けた取組を推進する。 【活動指標】 求人依頼や卒業生の就業状況確認のための職場訪問を行う。	(1)支援と推進について ・放課後就活セミナー ①6/17 2 年 3 人 (作業:封筒に書類を入れる) ②6/21 3 年 7 人 (面接練習) ③10/24 2 年 7 人 (職業興味テスト) ・三者面談:進路実現に向け、コーディネーター、保護者等との懇談 ① 7/17 3 組 ② 7/18 4 組 ○進路指導主事が 4 月から就職実現コーディネーターとともに卒業生が就職	

	(2)3年間の進学指導計画の整備を進める。	した企業への訪問・連絡を行い、今年度採用見込みと現3年次生への希望状況等の情報交換を実施 (2)本校のキャリア教育プログラムの中で進学指導に関わる内容を充実させた。	
働きやすい職場環境づくり	(1)チームとして仕事に取り組む体制作りを進め、総勤務時間の縮減を図る。 【活動指標】 定時退校Dayを月1回設定し、設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 部活動休養日を週1日以上設定し、予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100% 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 70%以上 【成果指標】 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数 12日以上	(1) ・定時退校Day:振替含み 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 99% ・休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して60分以内に終了した会議 53.2% (2月末時点) ・360時間超 7人 ・月45時間超 延べ48人 ・月30時間以下 25/32人中 ・休暇取得日数 約14.29日 (2月末時点)	
改善課題			
○「生徒が主体的に学ぶ授業」推進のため、教職員間での「学び合い」の機会を積極的に設けることができた。 ○連携型中高一貫教育校として中学校での学びを、高校での学びにスムーズにつなげる更なる工夫が必要である。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○地域の企業を中心に行ったインターンシップや地元企業交流会において、事前、事後の学習の在り方を検討する必要がある。 ○地域に協力的な人材が多く、更なる協働取組を検討していく。
---------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	①変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」を育成するため、地域と協働し「地域を学び場とした探究活動」を推進 ②生徒が自ら学ぶ姿勢を育むとともに、学力の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進 ③生徒の自己肯定感を育み、自他の生命及び人権尊重の精神を育成するための人権教育を推進
学校運営についての改善策	○コミュニティ・スクールとして、生徒を中心とした教育の充実を図り、地域人材と協働した学校づくりを推進 ○会議のペーパーレス化の継続、事項書や内容の事前送付、オンラインの更なる活用により、会議の短縮を推進

